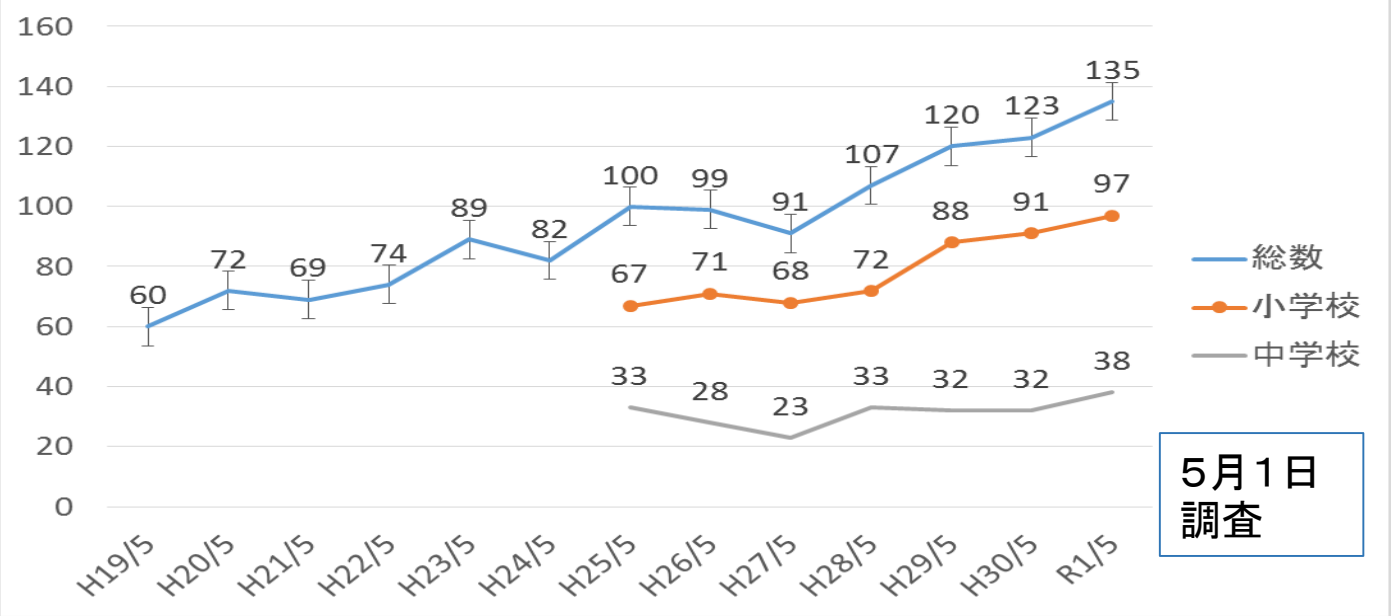


桑名市における 外国人児童生徒教育



1. 現状について

外国人児童生徒の増加



	国	言語	人数
1	ブラジル	ポルトガル語	67
2	ペルー	スペイン語	15
3	スペイン		4
4	中国	中国語	7
5	フィリピン	タガログ語	20
6		ビザイヤ語	5
7		英語	1
8	シリア	アラビア語	2
9	ベトナム	ベトナム語	3
10	インドネシア	インドネシア語	3
11	アフガニスタン	ペルシャ語	2
12	スリランカ	シンハラ語	2
13	パキスタン	パシュトゥー語	2
14	ロシア	ロシア語	1
15	アメリカ	英語	1
合計	13	14	135

外国人児童生徒数は10年間で約2倍となっている。
年度途中の転入も多く、今後も増加が予想される。

(12月1日現在 10名増の145名となっている)

また、母語の多言語化がみられ、言語対応が難しい現状となっている。

日本語が全く話せない子どもの増加

H30年度	転入数		内日本語が全く話せない児童生徒数	
4月				
5月	3人	ポル1、スペ2	1人	ポル1
6月	4人	ポル1、タガ1、アラビア2		
7月	3人	ポル2、中国1	1人	中国1
8月				
9月	1人	ポル1		
10月	6人	ポル6	5人	ポル5
11月	2人	ポル1、タガ1	1人	タガ1
12月	1人	ポル1	1人	ポル1
1月	4人	ポル2、中国1、ベトナム1	4人	ポル2、中国1、ベトナム1
2月	2人	ポル1、スペ1	1人	スペ1
3月	2人	ポル2		
計	28人	ポル18、スペ3、タガ2、中国2、ベトナム1、アラビア2	14人	ポル9、スペ1、タガ1、中国2、ベトナム1

R1年度	転入数		内日本語が全く話せない児童生徒数	
4月				
5月				
6月	7人	ポル5、スペ2	5人	ポル5
7月	4人	ポル1、スペ2 インドネシア1	4人	ポル1、スペ2 インドネシア1
8月	3人	ポル1、ベトナム1 インドネシア1	3人	ポル1、ベトナム1 インドネシア1
9月	2人	ポル2	2人	ポル2
10月	5人	ポル3 パキスタン／英2	3人	ポル1 パキスタン／英2
11月	2人	ベトナム1、 ネパール／英1	2人	ベトナム1 ネパール／英1
12月				
計	23人	ポル12、スペ4 ベトナム2、 インドネシア2 パキスタン／英2 ネパール／英1	19人	ポル10、スペ2 ベトナム2、 インドネシア2 パキスタン／英2 ネパール／英1

転入数及び初期適応指導が必要な児童生徒数が増加している

初期適応指導教室の必要性 

2. 現在の取組について

(1) 拠点校指導(大山田北小学校・光陵中学校)及び市内各校への巡回指導

- ・拠点校における指導と並行して、市内各校に在籍する子どもへの巡回指導を行っている。
- ・国際化対応教員により、日本語指導及び文化、慣習、学校生活等への適応指導を行っている。
- ・「特別な教育課程」を編成し、個々に応じた指導を進めている。

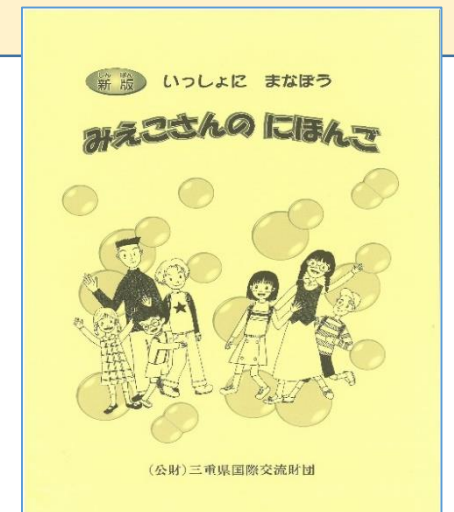
拠点校における

日本語指導が必要な児童生徒数

○大山田北小学校46名

○光陵中学校26名

(平成31年5月1日現在)



(2) 外国人児童生徒進路ガイダンス

毎年、6月の土曜日に開催。

外国人児童生徒・保護者の参加 60名

(令和元年度)

- ・参加者した保護者は、子どもに日本語の力を身につけさせ、高校に進学し、将来は日本で就職することを目指していた。
- ・会が終了してからも、多くの保護者が残って高校教員や国際化対応教員等に質問をする姿が見られ、ニーズの高さがうかがえた。



内容 例

① 桑名北高校、桑名高校定時制、北星高校から 学校紹介

- ・高校での学習内容
- ・3年間でかかる費用
- ・受験の科目 等について知らせた。

② 高校を卒業し、夢をかなえて企業等へ就職した先輩からの体験談

- ・それぞれが自分の進路について考えを深め、改めて目標を確かめる時間となった。

【平成30年度中学校卒業生の進路】

桑名北高校、桑名高校定時制、津田学園高校、四日市工業高校定時制、享栄高校 等
11人が卒業し、希望する進路に100%進むことができた。

(3) 夏季学習会「ガンバチアンド」の実施

大山田北小学校 8日間実施
延べ241人の参加
光陵中学校 7日間実施
延べ98人の参加



「ガンバチアンド」の意味
日本語の「がんばる」と
ポルトガル語の「~している」
の「アンド」をつなげて、
「がんばっているよ！」という
意味を込めて名付けました。



参加した子どもたちからは「夏休みの宿題や日本語の勉強ができてよかった。」「友だちと相談しあって勉強できるのがよかった。」「わからないことを先生に質問できた。」等の意見が寄せられた。

3. 課題解決に向けて

→ さまざまな取り組みを行っているが、今後も日本語が話せない子どもの転入増加が予想され、国際化対応教員の派遣等対応が困難となる。

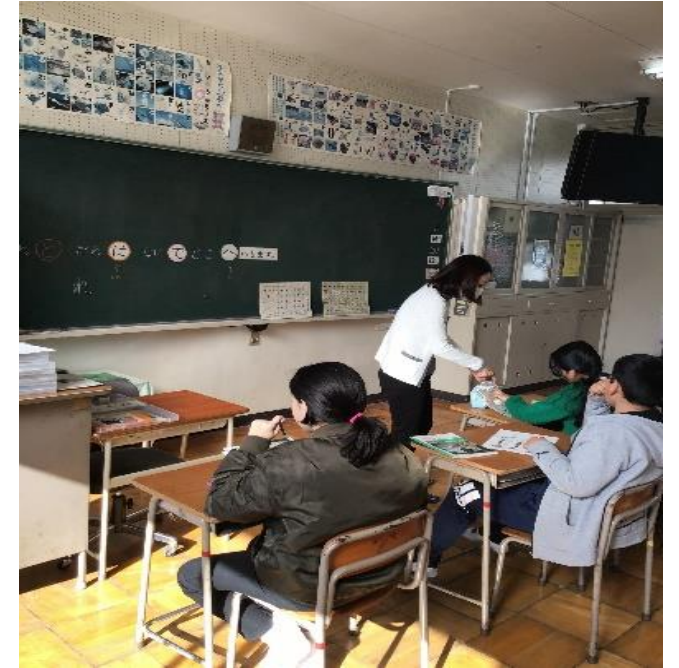
外国人児童生徒のための 初期適応指導教室の必要性

【ねらい】

初歩的な日本語学習や日本の学校への適応支援を一定期間集中して行い、児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるようにする。

【対象者】初歩的な日本語を話すことができない児童生徒

【期間】2～3か月



他市町の初期適応指導教室担当者による授業の様子

見込まれる効果



【児童生徒】

- ・初歩的な日本語が身につく。
 - ・日本の文化や慣習、学校生活についてわかる。
 - ・日本語を勉強するなかまがつながる。
- ⇒学校生活への不安が解消され、学校が楽しみとなる。
⇒授業が分かるようになり、意欲や学力が向上する。

【学校】

- ・日本語が話せない児童生徒が、市内各校に急に転入することがなくなる。
 - ・コミュニケーションの難しさによる友だちとのトラブルが減少する。
- ⇒各校担任の初期指導負担及び国際化対応教員による巡回指導の困難が解消する。個々に応じた学力の向上や、なかまとの深いつながりが期待できる。

【保護者】

- ・日本の学校生活等に関する情報を得ることができる。
 - ・保護者同士のつながりができる。
- ⇒保護者の、学校生活に関する疑問や不安が解消される。
⇒日頃の悩みを話せる保護者のコミュニティができる。